

わたしの仕事 (42) 富士通株式会社

大塚健一 (H29/2017卒)



1. はじめに

みなさま初めまして、背番号25キッカー大塚健一です。わたしは吉田先生のもと、熱工学研究室で学部を卒業した後、富士通フロンティアーズに入団しました。今年で入団6年目となるタイミングで、恩師である吉田先生より京機短信の「わたしの仕事」への寄稿文執筆の依頼をいただきました。社会経験は少ないかもしれませんが、かなり特殊な環境に身を置いている自信はあります。ぜひ楽しんで読んでいただき、自分が大切にしていること「前に出る」「今しかできないことをやる」が少しでも伝わり、何かを感じていただければ嬉しいです。

2. わたしの仕事

わたしが働いている会社は、富士通株式会社です。ここでわたしは、週4日システムエンジニアとして、週3日アメフト選手として過ごしております。月火木金はオフィスでPCを前に頭を動かす、水土日グラウンドで汗を流しております。そうです、休みがありません。同僚が金曜日の晩に飲みに行く中、自分はすぐに帰り、ストレッチをして、次の日の練習に備えるのです。社会人といえば、華金という言葉がありますが、自分は華金を感じたことはありません。むしろ、金曜日は次の日の練習のことで緊張してしまうくらいです。なぜ、わたしがこんな生活を送っているのかは「今しかできないことをやる」ためです。今しかできないこと、「アメフト」です。システムエンジニアとしての業務でもいろいろな経験をしましたが、富士通株式会社の会社説明会にでも行けば、システムエンジニアがどんな仕事をしているかはわかると思いますので、今回はわたしのもう1つの仕事「アメフト」についてお話します。

3. 富士通フロンティアーズでの挫折

わたしが富士通フロンティアーズに入団した理由は、富士通フロンティアーズが日本一のチームだったからです。自分自身、京都大学で4年間Gangstersで日本一を目指していましたが、達成することはできず、悔しい思いのまま引退しまし

た。そんな時に富士通フロンティアーズからお誘いをいただきました。ここでなら自分の夢だった「スポーツで日本一になる」が達成できると思い、すぐに入団を決めました。

わたしが入団してからの5年間でチームは実に4度の日本一に輝きました。ただし、わたし個人としてはこの5年間は挫折の連続でした。ほとんど試合に出ていないのです。試合に出ていないどころか、5年のうち4年は選手登録から外れスタッフとしてシーズンを過ごしました。

ここで、自分のポジションであるキッカーについて簡単に説明させてください。キッカーはラグビーの五郎丸さんを思い浮かべていただくとわかりやすいかもしれません。楕円球を蹴ってHポールの間を通すことがキッカーの仕事です。

ではそんなキッカーのレギュラーを決める方法はなんでしょう。そう、練習でチームメイトが見ている中でキックを蹴り、成功率を競うのです。毎回の練習の最後にチームメイトが見ている中で蹴ります。キックを蹴るときにはヤジが飛んできます。外そうものなら、「なにやってんねん」「お前もう蹴んな」「どーせ入らんどーせ入らん」など飛んできます。ヤジを飛ばされることは大学のアメフト部でも慣れていましたが、大学時代は自分がレギュラーだったので、そこまで気にしていませんでした。ただ、レギュラーでもないなか、ヤジを毎練習飛ばされていると、「オレは必要とされていない、誰も俺に期待していない」と言われているように感じ、本当に精神的にきつかったです。「もうみんなの前で蹴りたくない」と思うことも正直何度もありました。もちろん実力不足が大きな原因ですが、そーゆうネガティブな思考になればなるほど、持っている実力すら出せず、キックも入らないようになり、レギュラーになれないの繰り返しでした。「アメフトを辞めたい」と思った回数は数え切れません。

そんな中でもなぜ自分はアメフトをやめないのか。それはアメフトが「今しかできない」からです。スポーツ選手としてスポーツを行うことができる年齢には限りがあります。辞めたらすごく楽かもしれないですが、将来後悔することが目に見えています。自分自身がレギュラーとして、日本一にもう一度なりたいのです。自分自身に可能性があると思えるうちは諦められません。この文章を読んでいる方々にも「今しかできないこと」があるんじゃないかなと思います。もしあるのであれば、とにかくやってみてほしいです。やらない後悔はあっても、やった後悔は案外ないと自分は信じています。わたし自身この5年間、みじ

めなこと、つらいことの方が多かったですが、アメフトに挑戦し続けたことに後悔はありません。



スタッフとしての自分



選手として日本一になった自分

4. 富士通フロンティアーズで学んだこと

まだ、レギュラーになり、日本一になる途中ではありますが、この5年間で学んだことがあります。それは「前に出る」ということです。これは、自分の勝手な考えですが、京都大学に入学するような人たちは、小さいころから「わりと何でもできた」人が多いんじゃないかと思います。そして「人前で失敗することが苦手」な人が多いんじゃないかと思います。下手くそで弱い自分を見せることが苦手というか。「人前で失敗することが苦手」なことは何も悪いことばかりではありません。失敗をしないように入念に準備をして臨むことはとても大事です。ですが、失敗を恐れすぎて人前に出ていくのを恐れてはいけないと思います。何もアメフトに限らずとも、人前で何かをするという機会はあると思います。そういった機会に、迷ったら前に出てみてください。自分に自信がない時ほど前に出てみてください。自信満々で前に出ることは誰にでもできるんです。

失敗してもいいんです。凄い選手は「前に出る」ことが得意な人が多いです。「失敗してもいい。思いっきりやった。」といった感じです。失敗しても次修正してできるようになればいいというような感覚です。いい意味で人の目を気にせず、自分にできることに集中しています。そうやって何度も何度も、前に出て行って、小さな成功を積み重ねていって、評価を上げてレギュラーを勝ち取っていくのです。もし、この文章を読んでいただいている方々で、誰かに勝ちたい、

何かにおいてレベルアップしたいと思っている方がいらっしゃれば、ぜひ一緒に前に出ましょう。わたし自身、とにかく失敗を恐れず前に出て、今シーズン、レギュラーを勝ち取り日本一になりたいと思います。

5. おわりに

わたしの拙い文章をここまで読んでいただきありがとうございました。ほとんどが自分のアメフトの話でしたが、学生、社会人の方々問わず通じる部分はあったのではないのでしょうか。「前に出る」「今しかできないことをやる」は意識しないとできません。人は楽な方に流されやすい生き物だと思います。わたしの文章に少しでも共感いただけた方は、各々のステージで、今日から「前に出て」「今しかできないことをやる」を一緒に実践していきましょう。

また、自分自身今回執筆させていただいて、大事にしたいと思っていることを改めて思い返すことができ、吉田先生には非常に感謝しています。